

◆ 今週のコメント

- ・ インフルエンザの定点当たり報告数は5.28(359例)で、平成21年第47週以降減少しています。年齢群別では、「20～29歳」が最も多く、次いで「5～9歳」で、第53週以降、「20～29歳」の割合が目立ってきています。全国においても定点当たり報告数は減少していますが、1週間当たりの全国の死亡者数は、第53週以降、10名を超える状態が続いており、第2週は12例となっています。(1月22日現在)
第2週に京都市衛生公害研究所でPCR検査を実施した9例のうち、7例からA型インフルエンザウイルスが検出され、そのすべてがAH1pdm(新型)でした(2例は陰性)。
- ・ 感染性胃腸炎の定点当たり報告数は7.54(309例)で、本市の過去5年平均値(5.54)を上回っています。全国の定点当たり報告数は10.51で、年末年始の祝日を含む第53週を除き、平成21年第48週以降急増しており、今後とも注意が必要です。

◆ 今週のトピックス: <RSウイルス感染症>

今週の定点当たり報告数は0.59(24例)で、本市では平成21年第51週以降、全国では第50週以降、過去5年平均値を上回る値が続いています。詳細をトピックスに掲載しています。

◆ 発生状況

全数報告の感染症

- ・ 二類: 結核 1例(肺結核 1例, 肺外結核 なし, 無症状病原体保有者 なし), (喀痰塗抹陽性 1例)
【1月以降の累積報告数 6例(肺結核 4例, 肺外結核 2例, 無症状病原体保有者 なし), (喀痰塗抹陽性 3例)】

定点報告の主な感染症

(市内定点数 インフルエンザ定点68, 小児科定点41, 眼科定点10, 基幹定点1)

定点	感染症名	定点当たり報告数	報告数
インフルエンザ	インフルエンザ	5.28	359
小児科 (降順5位まで)	① 感染性胃腸炎	7.54	309
	② 水痘	0.61	25
	③ RSウイルス感染症	0.59	24
	④ A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.41	17
	⑤ 突発性発しん	0.39	16
眼科	流行性角結膜炎	0.40	4

病原体情報

(検体名は、紙面の都合上、鼻咽頭ぬぐい液をNP、糞便をFC、髄液をSF、尿をURと略す。)

検出病原体(報告数)	臨床診断名(採取週)	検体名	検出病原体(報告数)	臨床診断名(採取週)	検体名
ポリオウイルス1型(1)	不明(第44週)	NP	黄色ブドウ球菌(5)	かぜ症候群(第45週, 第46週), 蜂窩織炎(第46週), 急性細気管支炎(第46週), 敗血症(第47週)	NP×4 FC, NP ×1
ポリオウイルス2型(1)	感染性胃腸炎(第45週)	FC	A群溶血性レンサ球菌(2)	かぜ症候群(第45週, 第46週)	NP×2
ポリオウイルス3型(1)	感染性胃腸炎(第46週)	FC	G群溶血性レンサ球菌(1)	かぜ症候群(第45週)	NP
アデノウイルス40/41型(2)	感染性胃腸炎(第45週, 46週)	FC×2	肺炎球菌(2)	かぜ症候群(第45週, 第46週)	NP×2
アデノウイルス5型(1)	かぜ症候群(第45週)	NP	インフルエンザ菌b型以外(1)	かぜ症候群(第46週)	NP

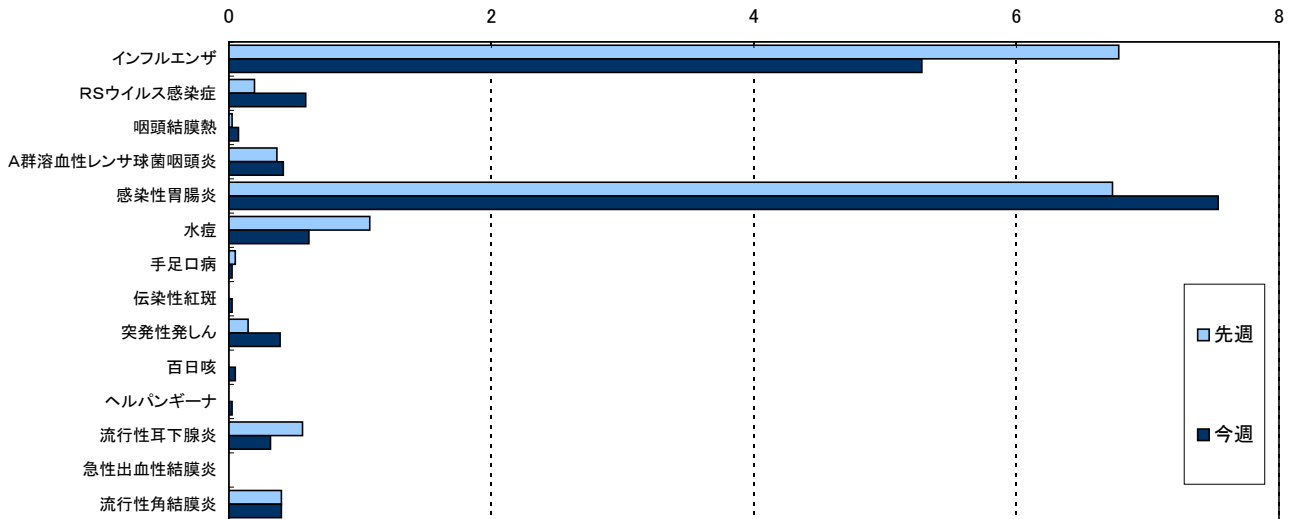
【次ページ以降の主な内容】

発生状況の概況グラフ / 今週のトピックス: <RSウイルス感染症>

(注) 京都市のデータは、平成22年1月21日現在の報告数で、全国の還元データと若干異なる場合があります。
また、本情報での患者数は、届出医療機関所在の保健所での集計で、患者の住所を示すものではありません。
病原体情報は、病原体定点等から京都市衛生公害研究所へ搬入された検体から検出された病原体です。

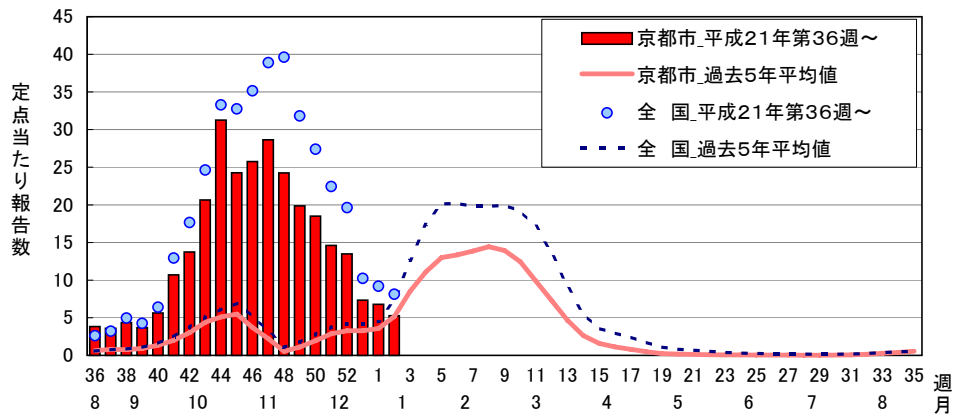
◆ 発生状況の概況グラフ

1 今週(第2週)と先週(第1週)の定点当たり報告数の比較



2 インフルエンザの推移

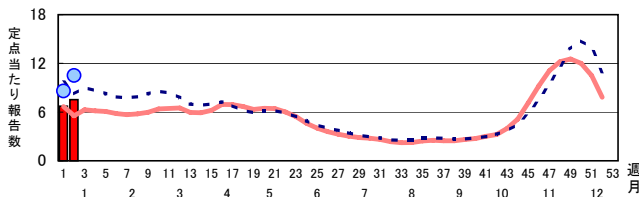
週	報告数(例)
第51週	996
第52週	917
第53週	499
第1週	461
第2週	359
累積報告数 (第36週以降)	19460



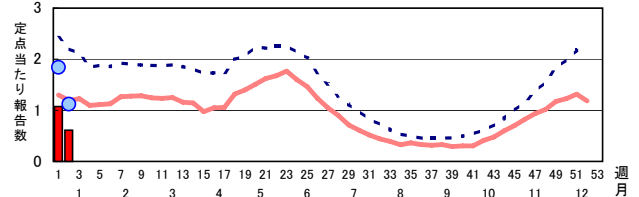
3 主な感染症の定点当たり報告数の推移

<小児科定点>

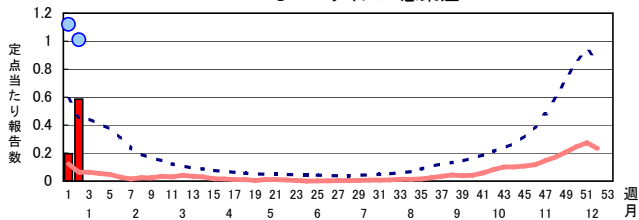
1 感染性胃腸炎



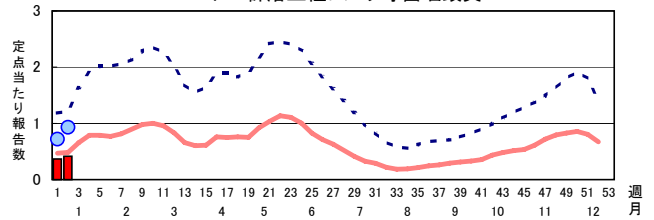
2 水痘



3 RSウイルス感染症

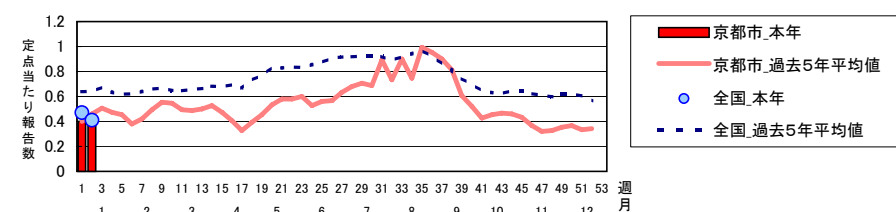


4 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎



<眼科定点>

流行性角結膜炎



ぜ症候群(第45週, 第46週), 蜂窩織炎(第46週), 念

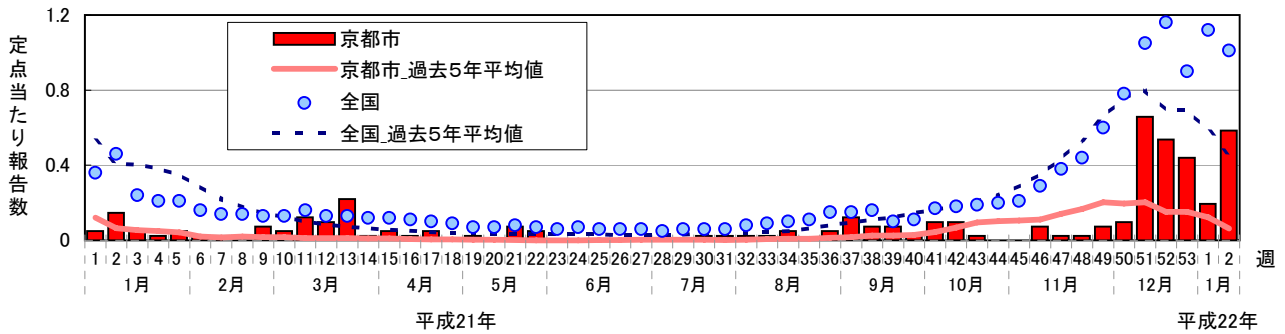
第2週(1月11日～1月17日)トピックス: <RSウイルス感染症>

今週の定点当たり報告数は0.59(24例)で、本市では平成21年第51週以降、全国では第50週以降、過去5年平均値を上回る値が続いています。

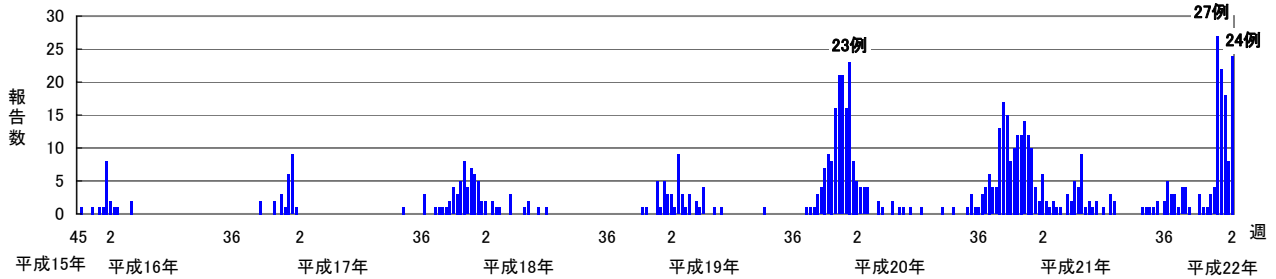
感染症法に基づく届出の対象となった平成15年第45週(11月)以降の推移をみると、近年、報告数は増加しており、第2週の24例は、平成21年第51週の27例に次いで多い報告数となっています。また、今シーズンは、過去4シーズンに比べて、1月における報告数が多くなっています。

第2週の年齢階級別報告数は、1歳(9例)、6～11ヶ月(6例)、0～5ヶ月(4例)の順に多く、1歳以下が79.2%(19例)を占めています。重篤な症状を引き起こしやすい生後6ヶ月未満の報告は、4例(16.7%)です。

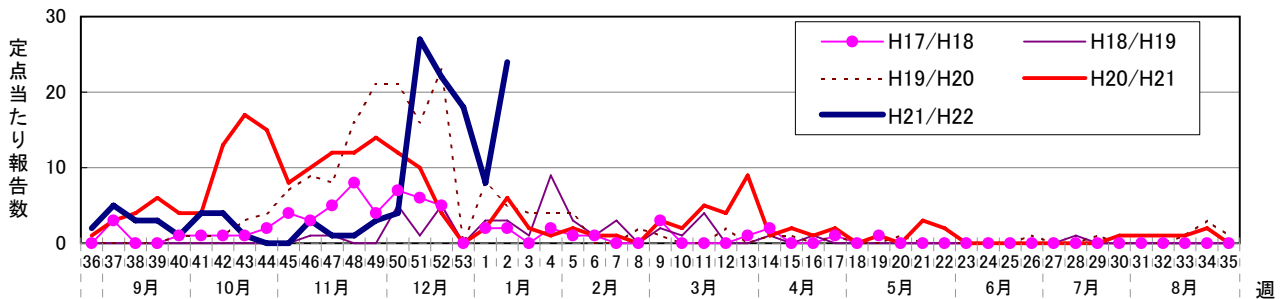
本市及び全国の定点当たり報告数の推移(平成21年～平成22年第2週)



本市の平成15年(第45週)以降の報告数の推移



本市の定点当たり報告数の推移(5シーズンでの比較)



本市の年齢階級別累積報告数(平成22年第2週, 平成15年第45週～平成22年第1週の累積報告数)

